

令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和6年10月17日
千葉県農林総合研究センター長

モモヒメヨコバイの発生について

- 1 害虫名：モモヒメヨコバイ
- 2 学名：*Singapora shinshana* (Matsumura)
- 3 作物名：ウメ
- 4 発生確認の経緯及び国内での発生状況
 - (1) 令和6年8月に県内の庭木のウメにヨコバイ類が寄生していると、住民から病害虫防除員経由で通報があった。現地を確認したところ、葉が白くカスリ状になる症状（写真1）と、ヨコバイ類の寄生が確認された。
 - (2) 同時期に近隣市の庭木のウメにおいても同様の被害とヨコバイ類の寄生（写真2）が確認された。
 - (3) この2か所のウメからヨコバイ類を捕獲し確認したところ、外観からモモヒメヨコバイであることが疑われた。そのため、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、いずれもモモヒメヨコバイであることが確認された。
 - (4) 本種は、国内においては沖縄県でのみ確認されていたが、令和元年に和歌山県で寄生や被害が確認され、現時点までに28都府県で特殊報等が出されている。
- 5 特徴
 - (1) 形態

成虫の体長は3.0~3.5mmで体色は黄緑色（写真3）、複眼は黒色で、頭頂部に特徴的な黒点がある（写真4）。若齢幼虫の体色は薄い黄色であり、終齢幼虫になると黄緑色になる。
 - (2) 被害

成虫および幼虫が葉に寄生し、吸汁加害する。吸汁されると葉色が薄くなり、葉全体が加害されるとカスリ状に薄くなる。激しく吸汁加害された葉は早期落葉することがある。
 - (3) 寄主植物

国内ではウメ、モモ、スモモ、アンズ、オウトウ、ハナウメ、ハナモモ等のバラ科植物を加害することが確認されている。海外では、ナシ等への加害も報告されている。
- 6 防除対策
 - (1) 本種の発生・被害の早期発見に努める。発生初期の場合は、速やかに寄生葉を除去し、圃場外に持ち出して適切に処分する。
 - (2) ウメ、小粒核果類ではモモヒメヨコバイに登録のある薬剤を使用する。なお、農薬を使用する際は、ラベルの記載事項をよく確認し、使用基準を遵守する。
- 7 その他

県内において、通常の薬剤防除を行っているバラ科植物生産園地では、本種による被害はこれまでに確認されていない。



写真1 ウメの葉の被害



写真2 葉裏に寄生した成虫



写真3 成虫（目盛りの間隔は1 mm）



写真4 頭頂部の黒点

※写真は千葉県農林総合研究センター原図

- ・病害虫発生予察情報は、インターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

